

オーブン カレッジ

経営者人材と企業統治が日本企業の大きな問題となっている。経営史学者のチャンドラーは、『経営者の時代』で、専門経営者によって率いられた近代企業の登場を予告したが、現在の日本企業では、専門経営者によって率いられた東芝のような会社が多くの問題に直面している。創業家経営者の企業にも、大王製紙やINAXのような問題が発生している。創業家と専門経営者が適宜交代するトヨタのような企業が、企業統治の面ではよいといわれて

経営の継承と経営者の育成

女性経営者の

可能性

SONO.

経営者の発掘と育成が重要な問題となるが、経営者選任委員会が外部から経営者を選任する方法は、長期的雇用を前提とする日本企



角田 隆太郎
檀山女学園大学大学院
現代マネジメント研究科教授・研究科長

角田 隆太郎

つのだ・りゅうたろう マーケティング戦略論。神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得後退学。1953年生まれ。

業には適していない。女性には6・6%に対して、「中部」は6・6%ともっとも低く、なかでも「岐阜県」(5・5%)は、12年連続でもっとも低い。「愛知県」(6・2%)、「三重県」(8・3%)と女性経営者比率が低いなかで、アルパイト出身の中島社長の社長就任は異例というべきであろう。

「あずきバー」で知られる井村屋は、1896(明治29)年井村和蔵によって創業され、1947年に井村屋株式会社が設立された。中島伸子現社長は8代目社長であるが、8人の社長のうち創業家の社長は2人だけである。

中島伸子社長は、近畿大学豊岡女子短期大学在学中に、北陸トンネル火災事故に遭遇し、煙を吸って声が出なくなり、高校教師の道をあきらめ、短大を卒業後、1978年にアルバイトと

して福井営業所に入社し、経理を学ぶために経理学校に通いながら働くなど、勤務姿勢を評価されて正社員となった。その後、北陸支店長、関東支店長を経て、浅田剛夫現会長に認められ、2008年に取締役、2019年に代表取締役社長に就任した。

浅田会長は、「生涯に3人のメンターを持って」という持論を持ち、自ら中島社長のメンターの役割を果たした。中島社長によれば、「私(中島氏)が取締役に就任した当時、女性は一人で、当時の浅田社長(現会長)は、意見を聞く場合に、いつでも最初に中島氏を指名したという。先に年配の知見のある人が意見を言えば反対意見は言いにくい、最初意見を聞かれれば自分の思ったことを言うしかない、声の大きい人に意見が左右されなくなっただ」という。

中島氏は、毎月1日を「あずきの日」にするキャンペーンを展開するなど、豊富なアイデアの持ち主としても知られているが、浅田会長によれば、「メンターを得るのは『素直さ』が大事。相手の話を聴くこと、そして学び、実行することが何よりも重要」という。

帝国データバンクの調査では、2021年4月時点での女性社長の割合は8・1%、そのうち50・8%が同族承継で、次いで創業者が35・3%、地域別では、もっとも高い「四国」の9

女性の顧客の多い消費財メーカーなどでは、顧客の視点からの商品開発や事業の仕組みを考えることのできる女性経営者を発掘し、活用することが成長発展の鍵となるのではないか。